

自分の考えをもち、ともにかかわり合い、高め合う児童の育成  
ーリーディングスキル（RS）の視点を取り入れた授業の工夫ー

埴町立埴小学校 教諭 森 裕美子

## 1 研究の趣旨

時代を切り開く子供たちに求められる資質・能力や、学校教育目標の具現化、児童の実態から考えて、変化する状況や課題に応じて活用できる知識や技能を身に付け、友達など周りの人と意欲的に関わり合いながら学習に取り組むことや、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるような学力を高めていくことが重要であると考えた。リーディングスキル（※以下、RS）の視点を取り入れ、文章で表された情報を正しく理解し、自分の考えの形成に生かせるような学力を身に付けさせることを目指し、本主題を設定した。

## 2 研究の概要

### (1) 研究内容

- ① 主体的な学びが生まれる単元構想
- ② RSの視点を取り入れた授業の工夫
- ③ 考えを深めるためのつなぐ話し合い
- ④ 学びを確かなものにするための振り返りと習熟の時間

### (2) 研究方法

- ① 「授業スタンダード」と「RS」を関連付けた指導のポイント「授業の工夫として意識してみようRS！」を活用し、授業実践に生かしていく。
- ② 「模擬授業」や「事後研究会」を通して経験の差に影響なく教師一人一人の授業力を高めるとともに児童の確かな学力向上を目指すことができるようにしていく。
- ③ 児童のノートや評価テストによる変容を見取り、授業改善に生かす。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

研究3年次は、「RSの視点」を国語科・算数科だけでなく、社会科や理科まで教科の幅を広げたことで、見方が広がるとともに、教材研究が深まり、教師が言葉に敏感になった。親密度の低い言葉や、つまずきが予想されるポイントを意識して授業を工夫することで、レディネスをそろえたり、曖昧な部分を取り上げてフィードバックし、確認・修正をしたりして、正しい理解につなげることができた。また、考えを深め、つなぐ話し合いを大切にすることで、「全員が参加する」という意識が高まった。ペアやグループ、全体など学習形態を工夫しながら、アウトプットする機会を設け、たくさんの考えを引き出すようにした。一人一人の意見を大切につなぎ、ときにゆさぶりながら考えをコーディネートすることができた。児童一人の発言で完結せず、「他者説明」や「問い返し」などを有効に活用しながら、考えを共有したり吟味させたりすることができた。

### (2) 今後の課題

今後の課題として、さらに、RSの視点を生かした実践を積み重ねていくことが必要であろう。教科の資質・能力を育むため、そして自分の力で課題解決する力を育てるために、どんな授業の工夫ができるのか、研究を深めていく。また、授業の中で児童のよさや思いを引き出し、考えをつないでいくコーディネートについてもさらに研修を深めていきたい。今後も、子どもたちが変化の大きいこれからの時代の中で、自ら学び続け、変化に対応しながら生き抜く力が付くように、授業の在り方について研究を続けていく。